

活動レポート

道南技術士委員会

文責：道南技術士委員会幹事 小田良将

平成 25 年度 総会と「技術発表会」

1. はじめに

道南技術士委員会では、定例の総会および技術発表会を開催しました。総会に先立ち、道南技術士会から新しく技術士に合格された清水技術士の技術発表と橋詰技術士による「函館観光の津波防災を考える勉強会」からの話題提供として「観光防災プロジェクトの目的」を発表して頂きました。

日時：2013 年(平成 25 年)4 月 26 日(金)

16:00～20:00

場所：ホテル リソル函館

参加：18 名

2. 技術発表会



技術発表会の状況

がない等)があるため、観光客を対象とした防災計画が十分に考慮されていない状況にある。そのため『観光防災』の必要性・喫緊性を函館観光を例にして、解説された。観光防災を進めるに当たり、観光客は地域住民と違い、顧客情報(宿泊者名簿等)は行政にないため、行政だけでは観光防災計画が作れず、観光業界自らの努力や行政への協力が不可欠である。さらに、技術屋は知見のわかりやすい提供、現状分析と相応しいシステムの構築などの役割がある、と説明された。

3.11 東日本大震災を契機とした、土木学会の活動方針である「技術は人を助けてこそ、幸せにしてこそ技術」に協調し、今後の抱負を述べられた。



講演 橋詰 知喜 技術士

(1) 講演 1：橋詰 DM 知喜氏

はしづめ技術事務所(技術士：水産部門)

演題：観光防災プロジェクトの目的

概要：講演では、『観光防災』の必要性や進め方について紹介された。自治体が作成する地域防災は、基本的に「地域住民」を対象としているが、観光客は特有の事情(常時不特定多数、連絡が取れない、土地勘

(2) 講演 2：清水 DM 亮輔氏

(株)ノース技研(技術士：建設部門)

演題：都市中小河川の総合的治水対策計画

概要：講演では、函館市街の中小河川の総合的治水対策計画事例について紹介された。

深堀川は函館市街に位置する中小河川であり、改修されているが、たびたびの水害(冠水)に見舞われ

ており、この冠水が生じた区域は流下能力が不足している状況である。改修計画策定時における課題は、計画流量を流下させる場合には河幅を現在の2倍程度に拡幅しなければならないが、住宅が近接しており実現可能性が低い点であった。この課題に対して、複数の治水対策を組み合わせることで事業費を抑えることとした。具体的には、①分水路の配置、②近接建物がない区間は、矢板護岸により拡幅、③河道屈曲部は緩和し流速の下がる区間を解消すること、等を背後条件に応じて組み合わせる事で、コストを削減した治水対策を立案した。



講演 清水 亮輔 技術士

3. 総会

定期総会では、布村代表を議長のもと、以下の議案について審議し、承認された。

- ・平成 24 年度活動報告および決算報告
- ・平成 25 年度事業計画および予算案

平成 25 年度の事業計画では道南地域の活性化に資する社会動向や話題提供、継続研鑽の機会としての CPD 研修会の企画運営、技術士の広報活動、技術士資格者増強のための支援活動などを行っていく事が確認された。

最後に、北海道本部より昨年度の技術士試験結果、近年の技術士会及び技術士を巡る最近の動向について説明がされた。

4. 懇親会

総会后、同ホテル 17:45 より懇親会が行われました。新合格者、新規会員を含め近況報告・情報交

換が行われ、アルコールも交え所属を超えた活発な情報交換がされました。



布村代表による活動報告の説明



奈良副代表による決算・予算報告



北海道本部 植村幹事からの説明

最後になりますが、会の発展を願って今回の報告とさせていただきます。会員皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。